

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	日本分子生物学会
演題名	Sex determination depending on X-chromosome dosage in <i>Drosophila</i> germline
発表者	<p>○<u>太田龍馬</u>¹、<u>Fazratul Hasanah Binti Muzayyan</u>¹、森田俊平²、林誠³、小林悟³</p> <p>1: 帝京大学 理工学部 バイオサイエンス学科 2: 東北大学 浅虫海洋生物学教育研究センター 3: 筑波大学 生存ダイナミクス研究センター (○は発表者、アンダーラインは本学教員または学生)</p>
内容	<p>生殖系列(配偶子を生み出す細胞の系譜)の性決定機構の仕組みはほとんど明らかになっていません。生殖発生生物学研究室ではこれまでに、ショウジョウバエのオス(XY)始原生殖細胞(生殖系列の基になる細胞)において、X染色体上の遺伝子の発現をメス(XX)と等しくする遺伝子量補償が欠如しており、X染色体上の遺伝子の発現が、XY型始原生殖細胞に比べXX型始原生殖細胞で二倍高いことを明らかにしています。本発表では、XY型始原生殖細胞における遺伝子量補償の欠如により生み出される、XX型とXY型の始原生殖細胞におけるX染色体上の遺伝子の発現性差により、生殖系列の性が決まることを示唆する結果について報告を行いました。</p> <p>本研究は、科学研究費補助金(18K14739および20H03287と、24247011, 25114002および18H05552の一部)および筑波大学TARAプロジェクトの支援を受けて行ったものであり、筑波大学との共同研究により行われました。</p>